

(四) 最近の出来事から

## あるがままの態度の堅持(一)

人は生きてゆく上で、幾多の困難に出会います。その時、指針となるのは森田の「あるがまま」の生き方です。今も、大きな現実的な不安材料が顔を出すと、人より多く悩むように思うと、前述しました。冒頭の文章を書いた時もちょうどそのような時でした。

私は、いわゆる大手の不動産会社に勤務しています。当時、地価のバブル崩壊により事業に急ブレーキがかかり、深刻な不況感で会社全体が暗く沈んでおりました。不況への対応を積極的に早くするめる意図もあったのでしよう、この時の異動で関西支社長としてこられることになった人は、社内でも厳しいと定評のある専務取締役であり、支社内には一段と緊張感が高まりました。しかし私にはさらに大きな不安材料があったのです。

新支社長になる人との人間関係については、十数年前の一時期、私もこの人の部下の一人だったこともあり、その頃は症状の最中で仕事で努力しても歯車のかみ合わないことも多く、結果的に嫌われているというつらい思い出ばかりが残っていました。そのため前述のような皆の緊張感以上に、私の不安は深刻極まりないものでした。

(続)